【ねがいましては】

平成１８年７月２５日
第１９０号　　*KYOWA　SCHOOL*

「味噌汁の香り」

夏休みが始まりました。私の幼少のころは、「もういーくつねると・・・。」お正月よりも楽しみであったことを覚えています。ほとんど丸一日コースで電車を乗り継ぎ、岐阜の母の里へ出かけます。約４０日間の山村での生活は、今の私を形成する土台にもなっているようです。東京は中央区で育った私は、コンクリートで囲まれている町並みがあまり好きではありませんでした。あわただしい時間の流れの中に、あわただしい人たちとのふれあい・・・。神経質であった私は、とうとう小学校６年生当時、「胃カタル」という病気にかかり、何を食べてもおいしくない日々を送った経験があります。

３６５日の中の約４０日です。１年の９分の１の山村での生活、しかも生き物が最も生き生きとしている季節でもあります。私の精神状態を『生きるんだ』という前向きなものにするには十分すぎるものでした。母が９人兄弟の２番目であったこともあり、その下に続く叔父や伯母は、私にとっての実質兄や姉でした。大家族に育まれて、大自然に育まれて、４０日間が私に栄養を注いでくれます。

朝、味噌汁のにおいで目が覚めます。せせらぎの音を聞きながら稲穂の広がるあぜ道を、朝露をたっぷりと足に浴びながらの散歩。ニワトリ小屋へたまごを集めに行きます。ヤギさんに一言挨拶をし、池のコイにえさをあげます。ひととおり周りの生き物たちに挨拶が終わって、さあ朝食です。もうこの時点でどれほどおいしい朝食であるか、想像がつくと思います。

おかずが何であろうと、私を取り巻く環境が、すでに何でもおいしくしているのです。

私は学校のクラスの中でも、夏休みに関しては特別な生活を送っていた一人のようです。１８００グラムで生まれてきた私は、幼年時代から小学校時代、ガリガリ君でした。その私が今のような体格になったのも、『毎年の４０日間田舎栄養注射』のおかげであったのかもしれません。

今年、夏休みが始まって感じたことがあります。「やったー、夏休みだー。」と、目を輝かせている子達が少ないようです。特に中学生たちは顕著です。『夏休み→学校へ行かなくてよい。』という方程式は見事に打ち破られ、『夏休み→ほとんど部活。』ということになっているようです。中学校へ通う子たちの多くが、そのような生活を強いられるようなので、特に驚いた様子も見せませんが、かなり生活環境からすると『サミシー』気がします。

夏休み、学校が休みなのだから『夏休み』。夏休み中も学校へ行くのであれば、『夏休み』とは呼ばない方がよいのではないでしょうか。思い切り、心に、体に、栄養注射をするのが『夏休み』だと思います。

年齢の異なった子たちとのふれあい、大自然とのふれあいのミニチュア版がキャンプであれば、年齢の異なった子たちとの、押し付けの無い自由な勉強が「くりたのランチ講習」なのかもしれません。

私にとんでもない夢があるのですが、『キャンプ場でのくりラン』です。本気で勉強することが目的です。１００％自分から前向きな心を発し、大自然の中で机に向かいます。机はひょっとすると『ダンボール』華も知れません。キャンプへ行ったことがあれば、想像が付くと思います。「きっと本気になれる・・・。」

朝、味噌汁の香りで目が覚めます。おいしく朝食をいただきます。１日の始まりの準備です。その後きれいにお掃除です。午前中、みんなの真剣なまなざしが想像できます。昼食後、思い思いに遊びましょう。そして昼寝・・・。夕方、みんなで協力し合っての食事つくりです。夕食後、また、彼らの真剣なまなざしが想像できます。

きっと午前中に勉強にのめりこんでしまった子達は、午後も「さっきの続きだー」とばかりに遊ぶことも忘れ、机に向かうでしょう。あっちからこっちから、質問の嵐です。

この生活が楽しくなくてなんなんだー！

お母さま方の念願の、学力アップもそうなのですが、彼らの中に残る思い出は、今の私の中にある毎年の４０日間に匹敵する『宝もの』になるはずです。

たった一度の自分の人生のプランを、しっかりと考えることのできる時間『夏休み』。

のんびりと、『家族』を考えることのできる『夏休み』。

『勉強』って何なんだ。と、じっくり考えることのできる『夏休み』。

『こころ』にたっぷりと栄養を与えることのできるのが『夏休み』です。

さて、皆さん。キャンプ直前、いや、キャンプ期間中でも、「やっぱり行くー。」となったら、ご連絡ください。駅まで迎えに参ります。人生後悔したくありませんからね。『小さな勇気』使えばいいわけです。

この文章、かなり誘惑していますよね。ではもっと拍車をかけましょう。

当たり前な生活から脱出しよう。当たり前な勉強から脱出しよう。そこから自分を見つめてごらん、本物の夢や希望が見えてくるかもしれないよね。そして真剣に見つめてね・・・『家族』・・・。